

# 明 — みよう —

真宗大谷派 本明寺通信

# No.10

2008年10月1日発行



御遠忌テーマ 今、いのちがあなたを生きている



真のよりどころを求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

# さるべき業縁のもよおさば いかなるふるまいもすべし



九月十八日に福岡市西区で「小一男児殺害事件」が起きました。犯人は母親ということで、よりいっそうの衝撃を受けた事件です。みなさんはこの事件をどのように受け止めたでしょうか。「また子どもが被害者になった事件」、「また親が犯人」などと「また」という言葉を付けて考えたりしませんでしたか。確かにここ最近、子どもが被害者になる事件や、親が子どもが親を殺してしまう事件が多く報道され、事件が混同してしまうことがあると思います。だから「また」と思ってしまうのも無理は無

いと思います。しかし、それぞれの事件には、それぞれの事件の背景があり、一括りには決してすることはできません。そして、このような事件に出会った時に、恐ろしいことだ、信じ難いことだと思えますが、それは自分とは違う世界の出来事ではなく、私自身の出来事として受け止めなくてはならないのではないのでしょうか。

親鸞聖人の弟子である唯円が書き記したとされる『歎異抄』にこのようなことがかかれています。

「さるべき業縁のもよおさば、いかなるふるまいもすべし」

とこそ、聖人はおおせそうらいし（『歎異抄』第十三条）

私は縁の催しによってはどのようなことでもしてしまう存在であるという、親鸞から聞いたというお言葉です。このお言葉は、ある時親鸞聖人が唯円に「私が言うことを信じるか」と尋ねました。唯円はもちろん「信じます」と答えました。「その言葉に一言はないな」と親鸞聖人は念を押して唯円に尋ねました。「例えば、私が人を千人殺したら浄土に往生できると言ったらどうする」。唯円は「私には千人どころか一人も殺すことなど出来ません」と答えました。親鸞聖人は「ではなぜ私の言うことを信じると言ったのだ」と言いました。親鸞聖人は続けて、「これで分かっただろう。どんなことでも自分の

心のままにどうこう出来るのならば、浄土に往生するために千人殺せと言われたら殺すのではないか。しかしながら、人一人殺すことも出来ないのは、ただ人を殺すという縁が備わっていないから殺さないのである。自分の心が善いから殺さないのではない。それとは逆に、いくら心が善いから人一人殺さないと思っても、百人千人殺してしまうこともある」といわれました。

このように『歎異抄』で言われているように、この私も縁の催しによつては何をするか分からない存在なのではないでしょうか。この私が今まで犯罪を犯すことがなかったのは、ただ単に私の心が善かったからではなく、犯罪を犯す縁が備わっていないからではない

ないでしょうか。「さるべき業縁のもよおさば、いかなるふるまいもすべし」という親鸞聖人の言葉を通して様々な事件を見ますと、決して他所の世界の出来事や他人事ではなくて、縁があればどのような恐ろしいことでもしてしまう私の本性が見えてくるのではないのでしょうか。それどころか、私は気付かぬうちに、多くの人々、生きとし生けるものに迷惑をかけていることを教えられるのではないのでしょうか。

このように悪という悪を作り続けているこの私が救われる道はあるのだろうか。親鸞聖人は  
いづれの行もおよびがたき身  
なれば、とても地獄は一定すみかとかし。

（『歎異抄』第二条）

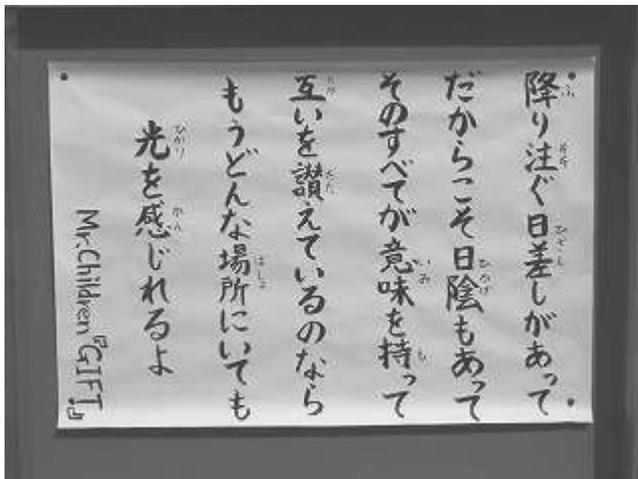
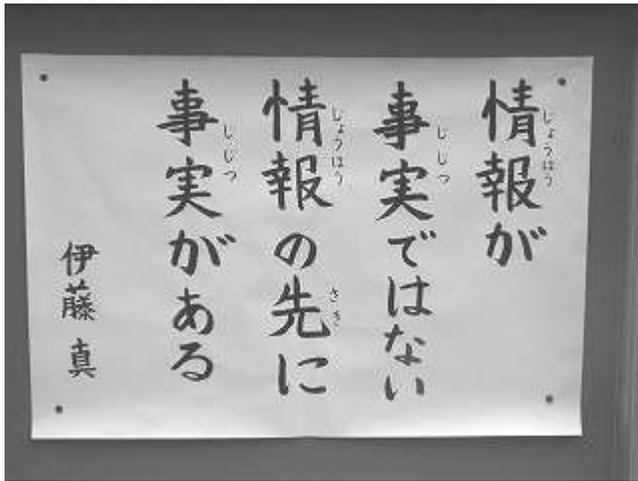
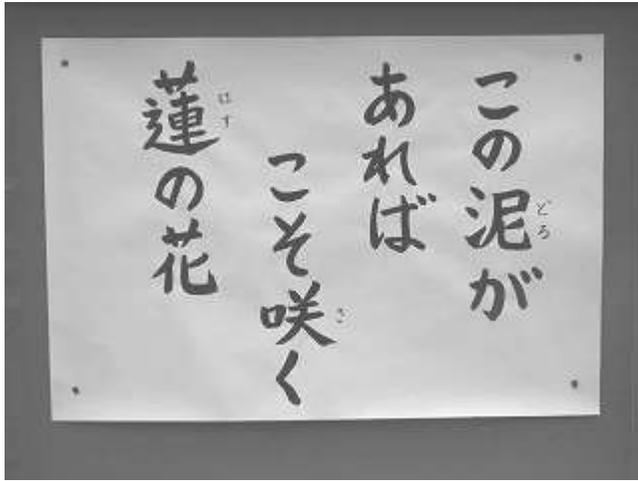
と言われている。悪という悪を作るこの私では、どのような修行に励んでも成し遂げることはできず、地獄に落ちることは確実だろうという事です。しかし私たちには阿弥陀仏の生きとし生けるものを救おうとする本願が用きかけてくださっているのです。『歎異抄』には

かかるあさましき身も、本願にあひたてまつりてこそ、げにほこられさふらへ。

（『歎異抄』第十三条）

とあります。阿弥陀仏の本願に出会う事ができるからこそ、このような何をしでかすかわからない私でも世間に真向かいになつて生きていけるのではないのでしょうか。

（釋 彰一）



七月

八月

九月



## ◆本明寺文庫を作ってみました

お寺に来る子ども達の憩いの場として、小さな文庫を作りました。子ども達と絵本などを通して一緒に考えていきたいらいいなあと思っています。ぜひとも、お子さんと一緒にお寺にお参りに来てください。



## ◆本明寺で帰敬式を計画中です

本明寺にて帰敬式（ききようしき）を行ないたいと思っております。

帰敬式とは仏・法・僧の三宝（さんぼう）に帰依（きえ）し、南無阿弥陀仏の教えに、私の生き方、私のあり方を問い学んでいこうとする、新たな人生の出発の式です。

帰敬式を受式しますと、お釋迦様の「釋（しやく）」の字を冠した二字の法名をたまわります。親鸞聖人も「釋親鸞」と名告られ、南無阿弥陀仏の教えに生きられました。法名は南無阿弥陀仏の教えを聞き、人生を生きていくという名告りであり、決して死後の名前というわけではありません。

真宗に出遇ったご縁を受け、一人ひとりの人生の新たなスタートとして帰敬式を受けていただきたいと思います。

ただいま計画しております。しばらくお待ちください。

### ◆ 私たちの真宗 ◆

- 一、本尊 阿弥陀如来
- 二、宗祖 親鸞聖人
- 三、宗旨 浄土真宗
- 四、宗派 真宗大谷派
- 五、本山 真宗本廟（京都・東本願寺）
- 六、經典 浄土三部經  
    仏説無量壽經  
    仏説觀無量壽經  
    仏説阿弥陀經
- 七、教え 本願を信じ、念仏もうさば仏になる
- 八、称名 南無阿弥陀仏
- 九、勤行 正信偈・念仏・和讃・回向・御文
- 十、宗風 礼拝の生活  
    《朝夕に勤行をいたしましょう》  
    正信の生活  
    《迷信に惑わされないで歩みましょう》  
    聞法の生活  
    《仏法を聴聞し、生まれた意義と  
    生きる喜びをみつけましょう》

### あとがき

◆お彼岸のお参りで、あるお宅での会話をきっかけに、巻頭の文章を書かせていただきました。書くことによって自分の中の言葉が整理でき、モヤモヤしてたものが少し晴れたような気がします。

◆娘の唯果は先日、突発性発疹でダウンしました。多くの赤ちゃんが通る道だとは聞いていましたが、代われる事なら代わってあげたいという気持ちでいっぱいでした。今は元気いっぱいに伝え歩きています (vov)

発行 真宗大谷派 本明寺  
副住職 本田 彰一（釋 彰一）  
〒130-0012  
東京都墨田区太平二・七-一  
TEL 03-3623-1536  
FAX 03-3623-1538  
E-mail honmyouji@mx1.ttcn.ne.jp  
URL  
<http://www1.ttcn.ne.jp/~honmyouji/>